夕刊
磐城新聞
八月十九日發行
發行所　磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

鐵舟逸話　藝盡し道樂會

島田忠夫

一

拜啓　千雙屏落成供養の爲め、藝人二十人を以て藝盡し相催し候。右人數周旋の面々、一人にて藝人三名を引受け、當日正午十二時迄に、湯島麟祥院へ相會し、人々持前の藝を盡し、午後三時退散す

但し正午折詰は赤飯料理蓮一枚。茶碗壹個。小皿壹個を用意し、各藝人に相贈候事

こんな廻狀が、當時の宮內省御用掛であつた鐵舟山岡鐵太郎先生から知友の間に配られた

『ほゝう、流石は風流子の鐵舟先生ぢや、それこそ日本一流の藝人揃ひであらう。いや、當日がたのしみぢや！』

廻狀を受けた大官や名士は、ひとしく山岡鐵舟先生の趣向を、まだ見ぬ前から大きく期待をした。廻狀には『藝盡し道樂會御案內狀』とあつて、接待員には、山口縣知事關口隆吉氏ほか、數人の何れも名士の名が竝んでゐた

さて、當日の明治十四年二月初めの、あたたかい日であつた。梅がぽつぽつほころびた本郷湯島の麟祥院へ名士は續々と集つて來た

『山岡先生は、いつも御風流ですな。それに、廻狀にもありましたが、蓮一枚、茶碗壹個、小皿壹個を用意し、各藝人に相贈候事など、仲々痛快ですなア』

『いや、全く御言葉の通りです。いづれ天下一流の大藝人でせうから、さういふものを贈られて、いろ〳〵困つてさぞ珍景を演ずるでせうよ』

『全くです、全くです』

ある名士は、乘合せた役所の馬車のなかで、こんな話を交した。さて、湯島の麟祥院へ着いて見ると門前にあふれるばかりの乞食の大群であつた

『いや、大へんな乞食ぢやナ。施米でもやるものと見える』

斯ういつて、汚い乞食どもを押し分けながら本堂へ近づくと、關口隆吉氏が居て聲をかけた

『さあさ、あちらからお上り下さい。ずつとお通り下さい』

會場は大書院であつた。山岡鐵太郎先生が、いつもの嚴しい顏を崩して、磊落にこ〳〵しながら出て來て

『さあさ、どうぞ上座へ。正座にはもう藝人衆が見えられてゐます。さあ、關ト もうすこし上座へ』

先生に云はれて、フト正座を見ると呀ッと驚いた二十人居るは居るが、みんな乞食だ。それも髮も蓬々と生わのびたのやら、顏に吹出もののしてゐるのやら、襤褸の下つた袖を合せてゐるのやら、虱をもそ〳〵掻いてるのやら、その二十人の藝人？が、いかにも眞自目臭つた汚らしい顏を竝べてゐる

潮聲硯靜抄帳

○梅の實　五月句會　席上互選

梅の實のつぶらに朝の露ひかる　眞砂常
梅の實の畑一枚細かゝる
梅の實の太りて見ゆる朝の空
實になりてまた人のよる野梅かな　文狂
青梅や母待つ子等の遠あそび
青梅や取殘しある楊二つ　石城
梅の實に雨晴の日のひかりをり

野原から

小菅正路

すく〳〵、若草うすみどり
來い來い、雲雀が　呼んでゐる
廣い野原に、ねころんで
じいつと、眺める　晴れた空
飛んだり、跳たり　僕一人
御本を讀むのも　あきたので
胸一ぱいに　春の陽を
吸つてとぼ〳〵　歸るんだ
菜の花畑は　にぎやかな
きれいな蝶々の　お客樣
お家はだん〳〵　近くなる
たんたん、たんぽゝ　摘ながら

登湯岳

珠雲　小野務中

連山合沓樹蘢葱
高下羊腸一經通
俯瞰蜿蜒洲渚外
漁舟ヘッフツ碧波中

その日〳〵

8月20日

△吉備眞吉備、阿倍仲麿唐に留學を命ぜらる（靈龜二）△細川幽齋逝く（慶長一五）△米アリゾナ州邦人排斥惡化△平町住吉屋本店に賊忍入り捕はる（昭和九）

○

朝、ながれ雲の浮いてゐる空を見てゐると、秋の空の深さが、泌み泌み感じられるやうになつた——

小說　誰が殺したか　(100)

今野賢三作　龍造寺勝齋畫

第二の殺人（十一）

『しかしね正常さん、貴方は私を信じてくれなければいけませんよ私の前に貴方はさうしておかくしになつても駄目ですよ』

『君はなにを言ふのだ、それぢや君は僕になにか犯罪でもあるといふのか』

正常の言葉は怒りをさへ帶びた

すると、星野はかへつておちついて微笑した

『犯罪があるかないかといふやうなことは、いつの場合でも、本人が一番よく知つてゐるものですよ、たとへば一國の大臣かなにか惡いことをして拘引される前には新聞記者などにむかつて、きまつて私は誓つて潔白だ、とかう見得を切りますからね、しかし、その心の中ではハッキリと御自分の犯罪を知つてゐますからね……』

『おい、それぢやア僕は自分の犯罪を知つてゐるとでもいふのか、おい！無禮な事をいふなッ』

『とうも言ひすぎてすみませんが、しかし、私になぜ？そんなにおかくしになる必要があるのですか』

『僕はなにも、君にかくしやせんぢやないか』

『私は貴方の保護者です。伯爵閣下の御依賴で引受けた以上は、身命を賭して貴方を保護しなければなりません、その重大な責任をもつてゐる私です。ところで貴方は今まさに、警視廳へ引出されようとしたゐるのです。花村刑事は今、課長の許可を得るため歸つてゆきました』

『それは、その刑事のなにかの間違ひだらう』

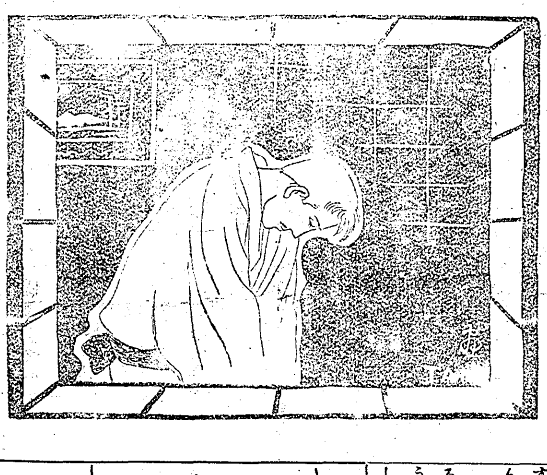
正常の言葉は、いくらかおだやかになつてきた

『間違ひぢやありません！それぢやおたづねしますが貴方は、あの富枝子さまが死體として發見された晩に借た自轉車に乘つて何處へゆかれましたか？』

『サアどこへつて……』

正常は、ます〳〵青い顏になつて、ひどく狼狽を見せた

『サアどこへ行かれました



『それから、あのすぐあとに、赤坂の待合淸月でお遊びになつたのは、貴方ではなかつたのですか？』

『……』

正常はこたへることが出來なくなつてきたやうに見えた。しだいに首をうなだれてきた

『ね、正常さん！もう花村刑事は、確實な證據をつかんでゐますぞ』

『わッ！』

こんどは、かくすことなく、驚きの聲をあからさまにして額をあげた

『貴方は、犯罪はないと仰有るけれど、警視廳では嫌疑がありさへすれば、いつでも勝手に拘引ができる！檢束ができる！ね、正常さん、さすがは貴方のお父さんです。あのときにすぐ私を內密に呼んで、貴方のことを依賴された心づかひはなるほどと、うなづかれます、貴方は思ひあたりませんか？』

もう正常は、言葉も發することが出來なくなつたやうに、すつかりうなだれてしまつた

童話劇　子守唄　二幕

永井善太郎

二

れい子、子守唄を歌ひながら、乳母車をおす

唄　それでお耳がお長いぞ　ねんねんよう　ねんねんよ

ぼうや　うああ〳〵　んうああん。うああん

れい子　ごめんごめん。いい子だからすぐ泣きやむでちよ

ぼうや　うああああん

唱歌の女先生、通り過ぎようとして振返り

先生　玲子ちやん、どうしましたの、そんなに泣かせちや、可愛さうよ

玲子　だつて先生、歌つてやゝと泣くんだもの

先生　あんたの唱歌のお點は、丙だつたつけ。成る程、あんたの子守唄では、ねてゐた坊やが起きてしまひます。笑うてゐた坊やが泣きだします

坊や　うああん、うああん、うああん

先生　あ、よしよし。よい子よい子

先生乳車を押して歌ふ

唄　よい子よい子
おゝねんねしな
おゝねんねする
ひとさまへ何をあげよ
五色のまり
玉の笛か
あづまの琵

坊や、すやすやと眠る

先生　そうれごらんよ。すやすやとたねんねしたでせう。やさしい聲で、美しいメロディで、やはらかな氣持で歌はなくちや駄目よ。さ、歌つてごらん。先生のあとにつけて

先生の唄　よい子よい子
玲子の唄　よい子よい子
先生の唄　おゝねんねしな
玲子の唄　おゝねんねしな
先生の唄　おゝねんねする
玲子の唄　おゝねんねする
先生の唄　わかさまへ何をあげよ
玲子の唄　にしきの旗
先生の唄　いくさびとの
二人の唄　こがねの太刀

先生　さ、解つて。では今度の唱歌の時間に又おけいこしませう。さよなら

玲子　さよなら

廣告

耳鼻咽喉科專門
平町田町（電六九一）
病室完備　自炊ノ便アリ
山內醫院
醫學士　山內亨吉

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋　和洋銅物
㊇釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番　九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊇の生命なり

株式現物賣買
三共商事合資會社
平町大町通り
電話三六〇番

特約店
天下一品散
下痢病妙藥ヲ御紹介致シマス
平町ネヅミ坂角
桑原商店
『取次販賣需ニ應ズ』

營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、胡麻、種水、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ

◎日本石油株式會社特約店
フィツングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店
電話六一番
本店　水戶線下館驛前（電話五五番）
支店所在地
茨城縣土浦町田宿（電話六五三・八二四）
常磐線關本驛前（電話平潟五四）
常磐線四倉驛前（電話四八）
久慈濱支店
海上給油所（大津、平潟）及油槽所（小名濱、江名濱）

ヒノ◎マル
凍魚
國は日本。凍魚はヒノマル
日本水產一手特約
發賣元　株式會社平製氷
電話二八二・三一六番
平町代理店
卜印魚問屋
電話五二八番
鯛。海老。白魚。イカ
刺身魚、煮魚、各種品々一個一尾ニテモ迅速配達……

大賣出し
特典
ラッキー受信機
自昭和十年八月一日
至同八月末日
イ、引込工事無料『但しメートル需要家には實費の半額一圓五十錢申受ます』
ロ、試驗料無料
ハ、アンテナ、アース取付無料『但し竿代は實費申受ます』
ニ、放送聽取申込料一圓を負擔します
マツダ眞空管新型四球付　一臺　金二拾五圓
◎其他高級受信機
主催　郡山電氣商工組合
後援　東部電力株式會社平支店
販賣店　平町二丁目警察署通り
古山電氣商會

吸入用酸素　純度99%
度量衡
モノサシ　マス　ハカリ
計量器
体温器　寒暖計
◎秤ノ取緒・垂糸・修復致シマス
關內藥局
電話四〇番

產科　婦人科　花柳病科
午前宅診　午後往診　入院應需
井坂醫院
平町田町（元合津醫院跡）
電話五五九番

ホシマークロ
ホシ胃腸藥錠　〇・二〇　〇・五〇　一・〇〇　二・〇〇
ホシチヤコール錠　〇・五〇　一・〇〇
本劑のアメリカにて發見せらるゝや近代科學に驚異として迎へられ、忽にして全米を風靡し、わが國に於ても、醫家にありては既に各科に應用せられつゝあり新時代の家庭常備藥として推薦發賣す
藥價　〇・三〇

強力殺菌消毒最良藥
水むしに
小さな怪我　創傷　腫物　蕁麻疹　とびひ　皮膚搔痒症　しらくも　いんきん　たむし　はたけ　乾癬
一家に一瓶　新時代の家庭常備藥

ホシエンストアー平支部
ホシ藥舖
平町三丁目
電話四二九番

月曜論壇

ファウルの教訓

ラヂオの放送する野球の實況を聞いて居ると、ツーストライク・スリーボールといふ場合が屢々ある。アナウンサーはここへ來る毎に最後の一投一擊と云ふ意味の言葉を繰返す。その次の球を打つて出ても三振になつても或は四球になつてもそこで運命が決せられると云ふわけなのだけれども事實は必ずしもそうは行かない、野球にはファウルと云ふ特別なものがあつて打者がファウルを打ち續ける以上——而して之を敵に捕られない以上ツーストライク・スリーボールの狀態は何時迄も續くことになる。最後の切札はなか〳〵出ないのである

野球は倏忽の間に運命を決する競技だからどの球も見方によつては最後の一投一擊にならない事は無い、之を決するものは打者の打擊如何に在るツーストライク・スリーボールは押詰つた最後の條件を具備してゐるに相違無いけれども、ファウルはよくこの空氣を緩和する。グラウンドに於けるファウルの多くは餘り見榮えのしないものであるが見方によつては不思議な役割を勤めて居るとも云へる

〇

メエテルリンクは押詰つた運命に臨んだ二つの例として、ルイ十六世とナポレオン一世の事績を擧げた。ルイ十六世が巴里を脫出してワレンヌから引戾される迄の運命は悉く後手にばかり廻つてゐて少しも自ら開拓する處が無い、四球を得やうとして三振を喫したやうなものである。ナポレオン一世が一個大隊の兵を五百人議會に闖入させて反對派の議員を逐ひ遂にフランス一國を掌握するに至る迄の徑路は、悉く他の機先を制して積極的行動に出てゐる。ボールを打つてロングヒットになつたやうなものであらう。遮莫。四球を待たうとする見送り主義は逸すべからざる好球をも看過する結果になり易い。須らく長棍一揮すべきであらう

映らふ七彩の美觀！空と水に歡呼渦卷く
昨夜鎌田流燈會の賑ひ
盆風景終曲

盆風景の最後を彩る平町鎌田町青年分團主催の有無緣佛供養流燈會は既報の如く昨十八日宵から鎌田橋畔で催された、前日來危まれた天候も上つて夕闇迫る頃から近郷近在からの人出に兩堤は早くも人で埋まつた、正七時、冲天に炸裂する煙火を合圖に流しを開始、數日來の降雨に水量も豊かな夏井の流れを靜かに辷るエメラルドの如き大小幾千の燈籠は其間夜空高く彩つて前後四回に亙りぶち上げられた

朝顏に夏の花園、富岳の殘雪に嵐、玉だれの瀧に菊花園、雨中の雷光（八寸玉）等の大仕掛花火、或は昇り小菊、銀波光二組等の早打花火を加へて大喝采を博し冷凉の氣を動かして一發、また一發、その都度起る萬雷の拍手と嵐の様な歡聲が渦卷く、腐朽甚しい鎌田橋並に附近の雜沓警戒に當る平署員や地元消、火防組員も汗だくの態であつたが九時の仕掛花火を最後に人の波は漸く引潮になり今度は櫓太鼓でこれ亦賑ひを呈して居る遊廓內へと押し寄せ盆三日の惡天候に滿を持した人出は之の附近一帶に氾濫し名狀し難い賑ひを呈した、恒例縣賞燈籠競技會は參加二十餘組、地元町議等審査の下に左記を入選と決定した

（一等）タンク—鎌田町岡田牛乳店 （二等）發電丸—發電所 （三等）供養丸—夏井川救濟工事々務所、（四等）みどり丸—南町古川瓦店 （五等）朝日丸—三丁目旭屋商店

下層を覗く
石城郡方面委員會
廿一日四倉町に開催

縣主催の石城郡方面委員會は來る二十一日午前九時から四倉小學校講堂に開き左記諸件を附議する

（說明事項）方面委員制度並救護法に關する件（指示）助成會、生業資金貸付、警察人事相談所との聯絡協調貧困者調査並に臺帳整理（注意）取扱報告其他（協議）方面委員大會開催、第八回全國社會事業大會開催、其他取扱實例發表

區の民事は縣下一
本年一月以來七月迄の前年對比受理件數

本年一月以降七月末日迄の平區並に支部に於ける受理件數は支部刑事では受理十件で若松の八件、白河の五件にリードし前年同期に比し二件の減、而も全部既濟强制執行なしの好成績で豫審は五件減の八件であつた臨刑事では受理は六件減の六十件で內未濟は五件、略式は百三十五件あり、受理件數合計百九十五件は若松の二百二十件に次ぎ第二位支部民事では受理七十四件で一件を增し若松の八十一件に次ぐ、この內判決は二件增の二十一件、和解は二件減の八件、取下は三件增の十八件で未濟は二件減の二十五件であるが他のそれと比較し何れも好成績、區民事では受理は十五件減の五百八十五件で第一位、この內判決は增減なく百十一件、和解は二件減の九十三件、取下は三件減の百件で未濟は二件增の七十三件といふ例年に比しては閑散なが他と比較して大多忙の狀態である

盛況裡に書道展終る
賞品授與式擧行

平町聯合書道會主催全國書道展覽會は一昨十七日開會連日約二千の參觀者に盛會を極めつゝ今十九日午後四時閉會したが、午後一時より同會の書道講堂に入賞者約九十名に對し賞品授與式を行つた

熱愛の直接行動
白晝片思ひの女を襲ひ
鹿島の低能男捕はる

鹿島村大字米田佐藤チヨ（二二）假名—は昨十八日午前十時頃平町に來る途中飯野村軍司山地內の暗がりを通行中突然傍から覆面した怪漢が飛び出し同女のさしてゐたパラソルをぶち破り極力反抗する同女をねじふせてあはや暴行を加へんとしたが悲鳴に驚いて其場を逃れた、屆け出により平署で搜査の結果同日午後鹿島村地內を徘徊してゐる鹿島村大字下矢田字湯草田五農惣之助長男金成好文（二九）を逮捕取調べの結果前記の犯行を自白した

チヨは磐城高女出身で某豪農の愛娘、加害者の好文は低能で以前から同女に想ひを寄せてゐたもので引續き取調中

綴採炭對全浪江軍
けふ軟式野球決勝

日本軟式聯盟主催全日本軟式野球大會濱三郡第一次豫選は昨十八日磐中、平商、平第一の三球場に行はれたが成績左の如く結局決勝戰に綴採炭並に全浪江軍が殘り今十九日午後二時より磐中球場に行つた

第一回戰
三丁目7—6湯本新濱

第二回戰
三丁目9—4土木
綴採炭12—2消友
遞友9—4鐵道TS
鐵道倶7—6發電
城山3—1湯本上町
城南—棄權—長橋
全浪江7—0綴倶
修養12A—11スミダ

準々決勝
綴採炭7—0三丁目
遞友5—4鐵道倶
城南9—3城山

準決勝戰
全浪江18—0修養
綴採炭5A—4遞友
綴 0 0 3 0 2 A
遞 1 2 0 0 1 0
5A—4
全浪江6A—2城南
浪 0 3 0 0 1 2 A
城 0 0 0 0 2 0
6A—2

萩原高速度編物講習
炭鑛其他で開催指導

萩原高速度編物普及會理事藏島尾昇雲氏は磐城炭鑛有志の希望により今十九日より二日間前記編物器使用方法の講習を開催中であるが該器は自由の場所へ取付け隨時使用し得る簡單な器械なるに拘らず、メリヤス或はガーター太細其他各種模樣編み等其の機能は手編同樣に出來上る精巧なもので機械が簡單な丈け破損する事無く價格は九十目三圓、百十目三圓八十錢の低廉で既に藤田女學校の講習を了し追て入山、古河各所に於ても講習會を開く事となるべく能率の增進と勞力の減殺等各家庭から歡迎されつゝある

紡績女工大量求人

平職業紹介所に今十九日岐阜縣大垣市笠縫町若林製糸紡績株式會社から女工八十名の大量斡旋方を依賴して來た

年令は十四才以上二十才迄、賃銀は初日給四十錢以上、期間雇入二ケ年、尋卒以上の學歷あるもので希望者は直に同所に申込れたいと

燈籠流し歸りで混雜中の立廻り
襲擊側四名檢擧
煙血の廓

平町驛前深谷亥三郎（三〇）鎌田町渡邊三郎（一九）假名—南町吉野義春（二三）の三名は昨十八日午後十一時頃鎌田遊廓住吉樓檜山謙方に至り番頭某と口論の末頭部其他を毆りつけ折から密行中の平署柏木、大谷兩刑事に檢擧されたが恰も流燈會歸りの觀衆で雜沓中の事とて大騷ぎであつた、尙堤の內稻田淸（二五）も連累者と目され檢束された

選擧肅正
縣議戰に備へる
濱通り八探題評定
廿八日平署で開催

選擧肅正の立前から縣警察部では來るべき縣議選擧に備へるとともに縣下九百警察官の精神作興のため會津中通り、濱通り地方の三ケ所で警察署長會議を開くべく計畫中、目下全國警察部長、檢事正會議終了後、內務省事務官、畠山警察部長後藤檢事正から合同內容傳達のためいよ〳〵同署長會議を開くことに決定、その翌日は幹部會議を催し前日署長會議で決した諸事項實行方法について協議するが濱通り八警察署は來る二十八日平署會議室に開くと

肅正映畫會
湯本四倉小名濱で

縣地方課においては選擧肅正趣旨の徹底に一層馬力をかけるため肅正映畫會を開催することに計劃した、郡內では來る三十日湯本町、翌三十一日は小名濱、來月二日は四倉町で何れも午後七時より開く

肉の衞生と心の肅正
傳染病と選擧に就て
平町の區長會が協議

平町區長會は今十九日午前十時から町會議室に開き選擧肅正懇談會、國勢調査よ選擧運動並に傳染病豫防に關し協議した

肅正運動は既報の如く去る一日から七日迄町內各方部に講演會を開いたが參會者少くその趣旨の徹底を期し難いので更に今月三十一日迄各區に於て懇談會を開催し一層目的の達成に努むる、尙傳染病は初發以來八十二名の多きに上り現在四名の隔離者あり今後一層流行の兆あるので各衞生區長と協力これが豫防に努める事になつたと

宿料踏みに餘罪
兩青年逐電

鹿島村大字松久須根字根岸無職藥谷長敬（二四）は小名濱町古港一〇二魚行商藤本勝彌（三二）と共謀し去月十五日から四日間飯野村大字吉野谷鑛泉に滯在、宿料十餘圓を踏倒し何れかへ逃走したが平署で取調べの結果更に藥谷は同月十九日頃鹿島小學校高岡訓導から夏洋服を一寸寫眞をとつて來るからと借り受けてこれを詐欺、又藤本も鹿島村大字久保精米業大平甚市方から白米一俵（十圓餘）を詐取した事判明

藤本の詐取した白米を賣りとばし兩名共高飛びしたものと目下平署で嚴探中である

昨曉仲間町荒しの泥棒に目星つく
一兩日中就縛の見込

昨十八日早曉平町仲間町土木請負業高山寅藏の宅で何者かに金時計並に鎖類（價格百餘圓）を竊取されたるを屆け出により目下平署で嚴探中であるが大体の目星がつき一兩日中逮捕されるものと觀られてゐる

●。●。●。東鄕記念會募金。 聖將東鄕元帥記念會は昨年十二月設立され全國に亙りこれが事業資金を募集する事にな

人生哲學とは何ぞや
街頭に嘯く怪紳士は
キ印と判明保護

昨十八日午後十時頃內郷村綴驛前を徘徊する洋服姿の怪紳士が『人生哲學とは何ぞや』とかとりとめもない事を口走つてゐるので早速平署に連行した、右は大沼郡本郷生れ高田義雄（三八）でた定りのキ印と判明目下同署で保護中

逆上男家出
親戚から搜索願

湯本町八仙一號の七垂石松太郎（四六）は數日前突然發狂し家人が監視中十六日早朝寢卷姿のまゝ家出し平町方面に來た形跡あり昨十八日親戚の同町櫻木町四六猪狩勝五郎より平署に取押へ方を願ひ出た

●。●。●。元唱妓の家出 平町新川町元鎌田遊廓新甲子樓事平野井子之松方寄寓中の元娼妓八重子栃木縣那須郡生れ與三の娘高野キヨ（二五）は數日前突然行方を晦ましたので子之松から平署に搜索方を願ひ出た

齋藤區長長逝

平町南町區長齋藤寅吉氏は豫て病氣の處藥石効無く昨十八日午前九時四十分長逝葬儀は明廿日午後二時出棺菩提院で執行すると、氏は長期に亙る區長として町治に盡瘁したる功績多く何れもその長逝を悼んでゐる、享年七十歳

坑內で感電
町田採炭夫の奇禍

內郷村大字宮字平太郎磐炭町田坑採炭夫根本周藏（五〇）は十六日午後三時頃入坑作業中誤つてケイブル線二百ボルドにふれ卽死した

●。●。●。●。磐落で重傷死。 好間村大字北好間字推木平萩原炭鑛排水夫茂又淸作（三八）は十七日午後三時半頃同鑛排水坑內で作業中落磐の爲重傷まもなく死亡した

横着運轉手に卅圓

小名濱町竹町二三小磯賢一郎方自動車運轉手內郷村高坂字臺生れ清水文男（二二）は四月二十九日午後三時頃トラックを運轉、平町大町地內を疾走中、不注意から同町齊藤寫眞館前で橫斷せんとした同家の二男敬二（五）に衝突し頭部に二週間を要する擦過傷を與へ剩へ申告を怠つた爲業務上過失傷害並に自動車取締令違反で此程平區より略式罰金三十圓

薗部巡查急逝

植田署管內川部駐在巡查薗部幸之助（四七）氏は昨十八日午後八時頃自宅で心臟痲痺のため急逝、葬儀は二十日午後一時から植田町で執行する

會葬御禮

常勝院葬送の際は御多忙中の處遠路御會葬被成下且つ御鄭重なる御香奠を賜り御厚志の段難有奉存候早速拜趨御禮可申上候得共乍略儀以紙上御厚禮申上候

昭和十年八月十九日

男 色川一
外親戚一同
色川木材株式會社

9ミリ半
ポニイ
活動撮影機 ¥18.00
活動映寫機 ¥17.00
西村屋藥舖
三電・二一平

石炭 一〇〇%サーヴヰス
時節柄ダンゼン値下げ！
一等塊 正味五十斤入一俵 金貳拾八錢
特塊 同 同 金參拾五錢
品質が優良 目方が正確 デナケレバ値段バカリ安クトモ結局高イモノニナリマス
此の點は當店を絕對に御信用願ひます。
市內ハ一俵ヨリ迅速ニ配達致シマス。
石炭 コークス 豆炭
電話三七番
阿部石炭商店

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
X光線科
病室完備
上田醫院
平南町
（電話 一二九）

新八月二十日 火曜 戊辰 佛滅 成 翼宿 舊七月二十二日

諸判定總宿 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 驕慢の念高まりて人々にうとんぜらるべし注意▲二黑 努力する程の功績は揚らぬも焦らぬが安全▲三碧 他人の世話事にて永く迷惑する事あるべし▲四綠 頼る人の期待に反して落膽する日相談不調▲五黃 敵の誘ひにひかれて死地に陷る不安なる日▲六白 氣力のみ盛んにして實力の伴はざる傾向あり▲七赤 優柔不斷は失敗の基となる勇躍事に當り吉▲八白 內わもめを防ぎ外敵に當る用意を肝要とす▲九紫 業績揚り家道榮ふるも出資貸金に警戒せよ

二十日（小名濱測候所調査）
日出 四、五八 月出後 九、四一
日沒 六、二二 月沒前 一一、二三
滿潮 前八、二〇 後七、三〇 干潮 前 一、五五 後 一、四〇